# リース取引

## リース取引とは

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　リース取引の内容を理解しよう！

②　２つのリース取引の違いを理解しよう！

**（1）意義**

リース取引とは、固定資産など（リース物件）を、所有者である貸手（リース会社）が、借手にリース期間にわたりこれを使用する権利を与え、借手はその対価としてリース料を貸手に支払う取引をいいます。

**（2）分類**

リース取引は、「**ファイナンス・リース取引**」と「**オペレーティング・リース取引**」に分類されます。

①　ファイナンス・リース取引

ファイナンス・リース取引とは、「解約不能（ノン・キャンセラブル）」及び「フルペイアウト」の要件をともに満たすリース取引です。解約不能とは、リース期間の中途において実質的に契約を解除できないことです。また、フルペイアウトとは、借手がリース物件からもたらされる経済的利益を受けることができ、かつ、リース物件の使用に伴って生じるコストを負担することを意味します。

さらに、ファイナンス・リース取引は所有権移転の有無により分類され、それぞれの会計処理が決まっていますが、2級では所有権が移転しないファイナンス・リース取引（**所有権移転外ファイナンス・リース取引**）を前提に学習します。

②　オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引とは、ファイナンス・リース取引以外のリース取引です。

**（3）会計処理総論**

2級では、**借手**の会計処理を学習します。

ファイナンス・リース取引は、実質的に借手はリース会社から資金を借りてリース物件を購入し、リース会社に借りた資金を分割で返済する取引と考えられます。したがって、ファイナンス・リース取引は「**売買取引**（固定資産の購入）」に準じて会計処理を行います。

オペレーティング・リース取引は「**賃貸借取引**」に準じて会計処理を行います。

| | | |
|---|---|---|
| ファイナンス・リース取引 | → | **売買取引**に準じた会計処理 |
| オペレーティング・リース取引 | → | **賃貸借取引**に準じた会計処理 |

# ファイナンス・リース取引

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　利子抜き法と利子込み法の違いを理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「リース資産」勘定（資産）

「リース債務」勘定（負債）

「支払利息」勘定（営業外費用）

「減価償却費」勘定（販売費及び一般管理費）

「リース資産減価償却累計額」勘定（資産のマイナス）

ファイナンス・リース取引は「**売買取引**（固定資産の購入）」に準じて会計処理を行います。

貸手に支払うリース料の総額は、貸手のリース物件の取得原価相当額（資金の元本）と貸手の利益部分（資金に対する利息）から構成されています。

**リース料総額 ＝ リース物件の取得原価相当額 ＋ 貸手の利益**

**＝ 資金の元本 ＋ 資金に対する利息**

利息の処理について、利息法と定額法がありますが、2級では**定額法**が出題されます。また、2級では利子抜き法と利子込み法を学習します。

### （１）利子抜き法

① リース開始時

リース取引開始日に、リース物件を「**リース資産**」勘定（資産）で処理し、貸手に対する債務を「**リース債務**」勘定（負債）で処理します。

資産の取得原価には通常、利息を含めません。また、負債も通常、利息を除いた元本で計上します。したがって、リース資産及びリース債務の計上額は原則として、**リース料総額から利息相当額を控除した金額**で計上します。なお、貸手のリース物件の取得原価は通常、借手にはわかりませんので、借手が当該リース物件を現金で購入した場合の金額である**見積現金購入価額**をリース資産及びリース債務の計上額とします。

**例題**　**当社（決算日は3月31日）は4月1日にリース会社と備品のリース契約（リース料年額6,000円、リース料総額18,000円、支払日3月31日、リース期間3年、利子抜き法）を結んだ。このリース取引はファイナンス・リース取引であり、リース資産の見積現金購入価額は15,000円であった。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **リース資産** | **15,000** | **リース債務** | **15,000** |

リース資産：見積現金購入価額15,000

② リース料支払時

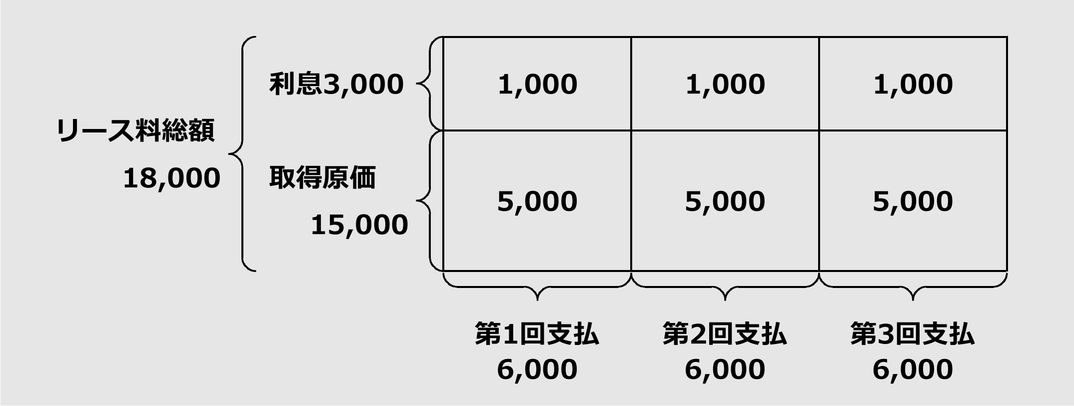
リース料に含まれる利息は「**支払利息**」勘定（営業外費用）で処理し、元本の返済分は「**リース債務**」勘定（負債）を減額します。なお、リース料総額に含まれる利息相当額について、2級では**定額法**により各期に配分します。

**例題　当社（決算日は3月31日）は4月1日にリース会社と備品のリース契約（リース料年額6,000円、リース料総額18,000円、支払日3月31日、リース期間3年、ファイナンス・リース取引、リース資産の見積現金購入価額は15,000円、利子抜き法）を結んだ。3月31日にリース料6,000円を当座により支払った。なお、利息の期間配分は定額法で行う。**

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **支払利息** | **1,000** | **当座預金** | **6,000** |
| **リース債務** | **5,000** | | |

支払利息：(リース料総額18,000－リース資産計上額15,000)
÷36ヶ月×12ヶ月＝1,000

リース債務：リース料6,000－支払利息1,000＝5,000



③　減価償却

リース資産については減価償却を行います。

所有権が移転しないファイナンス・リース取引ではリース期間が終了すると、借手はリース物件を貸手に返却します。したがって、借手がリース物件を使用できるのはリース期間ですので、耐用年数は「**リース期間**」とし、リース物件は返却しますので耐用年数到来時の見積売却価額である残存価額は「**ゼロ**」として通常、定額法により減価償却を行います。

**例題**　**当社（決算日は3月31日）は4月1日にリース会社と備品のリース契約（リース料年額6,000円、リース料総額18,000円、支払日3月31日、リース期間3年、ファイナンス・リース取引、リース資産の見積現金購入価額は15,000円、利子抜き法）を結んだ。決算にあたり、定額法（耐用年数はリース期間、残存価額ゼロ）により減価償却を行う。**

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **減　価　償　却　費** | **5,000** | **リース資産減価償却累計額** | **5,000** |

減価償却費：リース資産計上額15,000÷リース期間3年＝5,000

④　未払利息の計上

リース料の支払日と決算日が異なる場合には、経過した期間に対応する利息について「**未払利息**（未払費用）」勘定（負債）を計上します。

**例題**　**当社（決算日は3月31日）は1月1日にリース会社と備品のリース契約（リース料年額6,000円、リース料総額18,000円、支払日12月31日、リース期間3年、ファイナンス・リース取引、リース資産の見積現金購入価額は15,000円、利子抜き法）を結んだ。決算にあたり、未払利息の計上を行う。なお、利息の期間配分は定額法で行う。**

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **支　払　利　息** | **250** | **未　払　利　息** | **250** |

支払利息：(リース料総額18,000－リース資産計上額15,000)

÷36ヶ月×3ヶ月＝250

**（２）利子込み法**

① リース開始時

リース資産総額に重要性が乏しい場合には、リース資産及びリース債務の計上額について、リース料総額から利息相当額を控除しない金額（**リース料総額**）で計上することができます。この場合、支払利息は計上されません。

例題 **当社（決算日は3月31日）は4月1日にリース会社と備品のリース契約（リース料年額6,000円、リース料総額18,000円、支払日3月31日、リース期間3年、利子込み法）を結んだ。このリース取引はファイナンス・リース取引であり、リース資産の見積現金購入価額は15,000円であった。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **リース資産** | **18,000** | **リース債務** | **18,000** |

リース資産：リース料総額18,000

② リース料支払時

リース料に含まれる利息を認識しませんので、支払ったリース料は全額「**リース債務**」勘定（負債）を減額します。

例題 **当社（決算日は3月31日）は4月1日にリース会社と備品のリース契約（リース料年額6,000円、リース料総額18,000円、支払日3月31日、リース期間3年、ファイナンス・リース取引、リース資産の見積現金購入価額は15,000円、利子込み法）を結んだ。3月31日にリース料6,000円を当座により支払った。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **リース債務** | **6,000** | **当座預金** | **6,000** |

リース債務：リース料6,000

③　減価償却

減価償却は利子抜き法も利子込み法も同様に行います。ただし、リース資産の計上金額が異なるため、減価償却費の金額は異なる結果となります。

**例題**　**当社（決算日は3月31日）は4月1日にリース会社と備品のリース契約（リース料年額6,000円、リース料総額18,000円、支払日3月31日、リース期間3年、ファイナンス・リース取引、リース資産の見積現金購入価額は15,000円、利子込み法）を結んだ。決算にあたり、定額法（耐用年数はリース期間、残存価額ゼロ）により減価償却を行う。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **減価償却費** | **6,000** | **リース資産減価償却累計額** | **6,000** |

減価償却費：リース資産計上額18,000÷リース期間3年＝6,000

④　未払利息の計上

リース料の支払日と決算日が異なっても、利子込み法では利息を認識していないため、未払利息の計上は不要です。

**例題**　**当社（決算日は3月31日）は1月1日にリース会社と備品のリース契約（リース料年額6,000円、リース料総額18,000円、支払日12月31日、リース期間3年、ファイナンス・リース取引、リース資産の見積現金購入価額は15,000円、利子込み法）を結んだ。決算になったので、必要な処理を行う。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **仕訳なし** | | | |

**（3）貸借対照表での表示**

①　リース資産

リース資産は有形固定資産、無形固定資産の別に、一括して「**リース資産**」として貸借対照表に表示します。ただし、有形固定資産や無形固定資産の各勘定に含めて表示することもできます。

②　リース債務

リース債務は**一年基準**により、決算日の翌日から起算して、支払日が一年以内に到来するものは「**流動負債**」に、支払日が一年を超えて到来するものは「**固定負債**」に表示します。

# オペレーティング・リース取引

**【重要性：A】**

**ＰＯＩＮＴ！**

**仕訳をマスターしよう！**

**主な勘定科目**

**「支払リース料」勘定（販売費及び一般管理費）**

**「未払リース料」勘定（負債）**

オペレーティング・リース取引は、通常の「**賃貸借取引**」として会計処理を行います。

したがって、リース料支払時に「**支払リース料**」勘定（**販売費及び一般管理費**）で処理します。また、リース料支払日と決算日が異なる場合には、「**未払リース料**（未払費用）」勘定（負債）を計上します。

なお、オペレーティング・リース取引の場合、リース物件は固定資産として貸借対照表に計上されず、貸手に対する負債も計上されません。また、当該リース物件に関する減価償却も行いません。

**例題**　**当社（決算日は3月31日）は4月1日にリース会社と備品のリース契約（リース料年額6,000円、リース料総額18,000円、支払日3月31日、リース期間3年、オペレーティング・リース取引）を結んだ。3月31日にリース料6,000円を当座により支払った。**

| 借方科目 | 金　額 | 貸方科目 | 金　額 |
|---|---|---|---|
| **支払リース料** | **6,000** | **当座預金** | **6,000** |

**例題**　**当社（決算日は3月31日）は1月1日にリース会社と備品のリース契約（リース料年額6,000円、リース料総額18,000円、支払日12月31日、リース期間3年、オペレーティング・リース取引）を結んだ。決算にあたり、未払リース料の計上を行う。**

| 借方科目 | 金　額 | 貸方科目 | 金　額 |
|---|---|---|---|
| **支払リース料** | **1,500** | **未払リース料** | **1,500** |

未払リース料：6,000÷12ヶ月×3ヶ月＝1,500

# リース取引　問題

**問題1**　以下のリース取引に関して、以下の各問に答えなさい。与えられている勘定科目に数値がない場合があるので注意すること。なお、利息の配分が必要な場合は毎期均等額を費用として処理する。また、減価償却が必要な場合は、耐用年数6年、残存価額ゼロとして定額法で行う。

＜リース取引の内容＞
　期首にリース会社と車両に関するリース契約を締結した。リース期間は6年、中途解約不能、リース料は年額80,000円、期末に6回均等払い。見積現金購入価額450,000円。

①　当該リース取引がファイナンス・リース取引に該当し、利子込み法により処理した場合における決算整理後残高試算表を作成しなさい。
②　当該リース取引がファイナンス・リース取引に該当し、利子抜き法により処理した場合における決算整理後残高試算表を作成しなさい。
③　当該リース取引がオペレーティング・リース取引に該当した場合における決算整理後残高試算表を作成しなさい。

# リース取引　答案用紙

**問題1**

①

決算整理後残高試算表（一部）

| 借　　方 | 勘　定　科　目 | 貸　　方 |
|---|---|---|
| | リ　ー　ス　資　産 | |
| | リース債務(流動負債) | |
| | リース債務(固定負債) | |
| | 減価償却累計額 | |
| | 減　価　償　却　費 | |
| | 支払リース料 | |
| | 支　払　利　息 | |

②

決算整理後残高試算表（一部）

| 借　　方 | 勘　定　科　目 | 貸　　方 |
|---|---|---|
| | リ　ー　ス　資　産 | |
| | リース債務(流動負債) | |
| | リース債務(固定負債) | |
| | 減価償却累計額 | |
| | 減　価　償　却　費 | |
| | 支払リース料 | |
| | 支　払　利　息 | |

③

決算整理後残高試算表（一部）

| 借　　方 | 勘　定　科　目 | 貸　　方 |
|---|---|---|
| | リ　ー　ス　資　産 | |
| | リース債務(流動負債) | |
| | リース債務(固定負債) | |
| | 減価償却累計額 | |
| | 減　価　償　却　費 | |
| | 支払リース料 | |
| | 支　払　利　息 | |

# リース取引　解答解説

**問題1**　解答

①

決算整理後残高試算表（一部）

| 借　方 | 勘定科目 | 貸　方 |
|---|---|---|
| 480,000 | リース資産 | |
| | リース債務(流動負債) | 80,000 |
| | リース債務(固定負債) | 320,000 |
| | 減価償却累計額 | 80,000 |
| 80,000 | 減価償却費 | |
| — | 支払リース料 | |
| — | 支払利息 | |

②

決算整理後残高試算表（一部）

| 借　方 | 勘定科目 | 貸　方 |
|---|---|---|
| 450,000 | リース資産 | |
| | リース債務(流動負債) | 75,000 |
| | リース債務(固定負債) | 300,000 |
| | 減価償却累計額 | 75,000 |
| 75,000 | 減価償却費 | |
| — | 支払リース料 | |
| 5,000 | 支払利息 | |

③

決算整理後残高試算表（一部）

| 借　方 | 勘定科目 | 貸　方 |
|---|---|---|
| — | リース資産 | |
| | リース債務(流動負債) | — |
| | リース債務(固定負債) | — |
| | 減価償却累計額 | — |
| — | 減価償却費 | |
| 80,000 | 支払リース料 | |
| — | 支払利息 | |

**問題1**　**解説**

①　ファイナンス・リース取引・利子込み法

・リース開始時

利子込み法では、リース資産及びリース債務の計上額はリース料総額となります。

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **リース資産** | **480,000** | **リース債務** | **480,000** |

リース資産：年額リース料80,000×リース期間6年＝リース料総額480,000

・リース料支払時

利子込み法では、支払ったリース料は全額、リース債務を減額します。

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **リース債務** | **80,000** | **現金預金** | **80,000** |

・減価償却

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **減価償却費** | **80,000** | **減価償却累計額** | **80,000** |

減価償却費：リース資産480,000÷リース期間6年＝80,000

・リース債務の流動固定分類

リース債務は一年基準により、流動負債と固定負債に分けられます。

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **リース債務** | **400,000** | **リース債務(流動負債)** | **80,000** |
| | | **リース債務(固定負債)** | **320,000** |

リース債務(流動負債)：次期の期末に支払うリース料80,000

リース債務(流動負債)：決算日から1年を超えて支払うリース料80,000×４

＝320,000

② ファイナンス・リース取引・利子抜き法

・リース開始時

利子抜き法では、リース資産及びリース債務の計上額は見積現金購入価額となります。

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **リース資産** | **450,000** | **リース債務** | **450,000** |

リース資産：見積現金購入価額450,000

・リース料支払時

利子抜き法では、支払ったリース料のうち、利息分は「支払利息」勘定（営業外費用）に計上し、元本分はリース債務を減額します。

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **リース債務** | **75,000** | **現金預金** | **80,000** |
| **支払利息** | **5,000** | | |

リース債務：リース債務計上額450,000÷6年＝75,000

支払利息：(リース料総額480,000－リース資産計上額450,000)÷6年＝5,000

・減価償却

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **減価償却費** | **75,000** | **減価償却累計額** | **75,000** |

減価償却費：リース資産450,000÷リース期間6年＝75,000

・リース債務の流動固定分類

リース債務は一年基準により、流動負債と固定負債に分けられます。

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **リース債務** | **375,000** | **リース債務(流動負債)** | **75,000** |
| | | **リース債務(固定負債)** | **300,000** |

リース債務(流動負債)：次期の期末に支払うリース債務75,000

リース債務(流動負債)：決算日から1年を超えて支払うリース債務75,000 ×４＝300,000

③ オペレーティング・リース取引

・リース料支払時

オペレーティング・リース取引は支払ったリース料を「支払リース料」勘定（販売費及び一般管理費）に計上します。

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **支払リース料** | **80,000** | **現金預金** | **80,000** |